

第2510地区 第11グループ



2010~2011

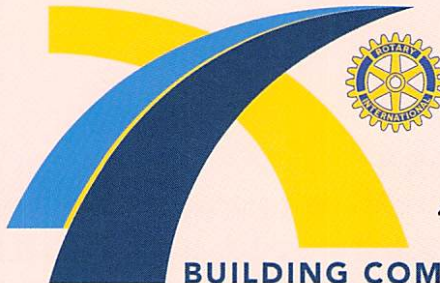
The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2010~11年度
国際ロータリーのテーマ

**地域を育み、
大陸をつなぐ**



**BUILDING COMMUNITIES
BRIDGING CONTINENTS**

2010~11年度
国際ロータリー会長

レイ・クリンギンスミス

Ray Klinginsmith

阿部誠太 会長テーマ — ロータリー精神の初源に帰ろう —



12月22日 卓話 深瀬 晃一 会員

《第2272回例会》 第23号 1月5日(水)

本日のプログラム

新年恒例会

於 一乃松 午後6時30分~

★会長 阿部誠太 ★幹事 増山 正

例会場：函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 二チロビル4F TEL23-3870

目を赤くした東尾裁判官が言葉を詰まらせ、刑務官も涙をこらえるようにまばたきするなど、法廷は静まり返った。

「痛ましく悲しい事件だった。今後あなた自身は生き抜いて、絶対に自分をあやめることのないよう、母のことを祈り、母のためにも幸せに生きてください。」


裁判官が最後にこう語りかけると、
「ありがとうございました」
と頭を下げた被告。

法廷には、傍聴人と検察官と被告のすすり泣く声が響き、法廷は悲しみに包まれた。

あなたの周りにも、困っている人はいませんか？

(会報担当者：渡部 二康 委員長)

土木・建設・鉄筋工事業 北海道知事 渡島(般-17)第2968号



株式会社 イズミ鉄筋工業

代表取締役 泉 彰

鉄筋基幹技能士：菅野 幸夫・中村 圭輔
厚生労働大臣認定 鉄筋一級技能士：
新屋敷幸三・嘉義 俊昭・泉 昌樹・秋田谷 勇・高橋 亘・滝澤 潤
玉井 利勝・秋元 輝彦・本庄 智彦・佐藤 哲也・佐々木弘幸

〒041-0262 函館市古川町474番地の1 TEL 0138-58-3954 FAX 0138-58-3961

(広告掲載：泉 彰 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

【1月4日現在のアクセス数：11065件(+50件)】

◎12月8日出席報告 (小河 博保 副委員長)

会 員	24名	出席率対象会員	24名
		出席規定免除会員(a)	0名
		出席規定免除会員(b)	0名
当日出席	22名	当日欠席	2名
他クラブ出席	1名	出席合計	23名
出席率	95.83%		

・テレフォンサービス(例会移動案内) 電話 26-3170番

<p style="text-align: center; font-weight: bold;">次回・1月12日 プログラム</p>	<p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">会 員 卓 話</p> <p>石橋 輝夫 会員</p>
--	---

2010～2011〈第 2271 回例会〉第 22 号

12月22日の記録

◎司 会 阿部 誠太 会長 ◎斉 唱 それでこそロータリー、四つのテスト

◎ビジター 函館 R.C. 地主 昇君

◎会長報告 阿部 誠太 会長
○特にありません。

◎委員会報告

○財団米山委員会 山下 清司 委員長

- ・親善奨学生再来年派遣の募集が来ています。どなたかいらしたら事務局までお知らせ下さい。
- ・財団認証等の案内は従来は地区を通してでしたがこれからは直接クラブへ届きます。1,000万円以上の大口寄付の方を厚く表彰するそうです。

◎幹事報告 増山 正 幹事

- 1月1日よりロータリーレートが、1ドル82円から84円に変更になります。
- 函館五稜郭 R C 創立40周年記念誌と和歌山城南 R C の会報が届きましたので回覧いたします。
- 1月4日(火)函館東 R C 移動例会、函館セントラル R C 自主休会に変更です。

◎親睦活動委員会 小河 博保 委員長

ニコニコ BOX 投入報告

中野会員・山下(清)会員・成田会員・小笠原会員……今年もお世話になりました。
石橋会員……クリスマス家族会、小河会員ごくろうさんです。
森 会員……今年も一年大変お世話になりました。くる年も宜しく願います。
柴崎会員……クリスマス家族会欠席申し訳ありません。

◎卓話 深瀬 晃一 会員

※深瀬会員が紹介したビデオの内容を掲載します。

あなたの周りにも、困っている人はいませんか？

京都市伏見区桂川河川敷で、2月1日無職片桐康晴被告が、認知症の母親を殺害して無理心中を図ったとみられる事件の初公判が行われた。

事件内容は認知症の母親の介護で生活苦に陥り、母親と相談の上で殺害したというもの。

片桐被告は母を殺害した後、自分も自殺を図ったが発見され一命を取り留めたとの事。

片桐被告は両親と3人暮らしだったが95年に父が死亡。その頃から、母に認知症の症状が出始め、一人で介護した。

母は05年4月ごろから昼夜が逆転。俳諧で警察に保護されるなど症状が進行した。

片桐被告は休職してデイケアを利用したが介護負担は軽減せず、9月に退職。

生活保護は失業給付金などを理由に認められなかった。

『死ねということか』

介護と両立する仕事は見つからず、12月に失業保険の給付がストップ。

カードローンの借り出しも限度額に達し、デイケア費やアパート代が払えなくなり、06年1月31日に心中を決意した。

「最後の親孝行に」

片桐被告はこの日、車いすの母親を連れて京都市内を観光。

市内のコンビニで、被告は財布に残っていたわずかな小銭で菓子パンを買い、二人で食べたという。

2月1日早朝、同市伏見区桂川河川敷の遊歩道で、片桐被告が「もう生きられへん。此処で終わりやで。」などと言うと、

母は「そうか、あかんか。康晴、一緒やで。」と答えた。

被告が「すまん」と謝ると、

母は「こっちに來い」と呼び、

片桐被告が母の額にくっつけると、

母は「康晴はわしの子や。わしがやったる」と言った。

この言葉を聞いて片桐被告は殺害を決意。

母の首を絞めて殺し、自分も包丁で手首を切って自殺を図った。

冒頭陳述の間、片桐被告は背筋を伸ばして上を向いていた。

肩を震わせ、眼鏡を外して右腕で涙をぬぐう場面もあった。

裁判では検察官が片桐被告が献身的な介護の末に失職等を経て、追い詰められていく過程を供述。

殺害時の二人のやりとりや、
「母の命を奪ったが、もう一度母の子に生まれたい」
という供述も紹介。

陳述の最中に、検察官が涙で声を詰まらせるという異例の雰囲気の中で、裁判は進行した。